

小澤 實選

消しゴムの消しあとと黒し梅雨に入る

横浜市 塚本 文武

【評】鉛筆で書いた文字を消しゴムで消した、あとが薄黒くなっている、いつか梅雨に入っている。「消しあとと黒し」の描写がたしかである。「梅雨に入る」ともよく響いている。

豚を連れ水着の少女歩きけり

相模原市 はやし 央

【評】白日夢のようにも見えるが、最近では愛玩する豚を連れ歩く人がいる。選者も目撃したことがある。水着の少女だから、浜辺か。

握る手の蛍放つや手を嗅ぐ児

瑞浪市 岩島 宗則

【評】握った手の中には、捕えた蛍をしばらく秘めていた。それを放ってしまった後、手を嗅いで蛍がいた名残を確かめているわけだ。

があと鼻ひとつ鳴らせり三尺寝

川崎市 折戸 洋

雷鳴の群馬南部を横断す

小諸市 藤 雪陽

鉄砲百合三方に向け咲き放ち

横浜市 広瀬 稔

白玉がウリで女将が九十で

東京都 金谷 白道

中華屋の隅の扇風機の微風

町田市 花田 港

傘立てに潜む一匹雨蛙

岐阜県 横山 道男

パーベキュー新にんくのホイル焼き

丸亀市 布戸 道江

津川絵理子 選

フラインドふちゃつと上がる梅雨入かな

三原市 天崎 千寿

【評】上がるフラインドの、締まりのない音の形容がユニークだ。梅雨入の鬱陶しさと響きあいながら、どこか茶化している感じがあって面白い。こんなことも俳句になる。

AIの知らぬ世界や梅雨じめり

南房総市 山根 徳一

【評】AIが進化して人間に取って代わろうとする時代、それでも人間しか知りえぬ事はあるのだ。たとえば梅雨じめりの皮膚感覚なども。

走り梅雨力フェインレスの紅茶買う

名古屋市 徳広 光恵

【評】この頃はカフェインレスのコーヒーや紅茶が増えたように思う。梅雨を前に、心身を労わる気持ちの表れか。中七が目を引く。

あじさいの青従えて猫の棺

東京都 関口 ふみ

夜濯や特に汚れし負け試合

土浦市 今泉 準一

朽ち傾ぎゆくトーチカへ海霧迫る

国分寺市 野々村澄夫

晴子独り泉の底に芒種かな

さいたま市 関根 道豊

一鳥の姦しきこと新樹光

柏市 藤嶋 務

紫陽花やまた一本の忘れ傘

郡山市 寺田 秀雄

喪籠りといふ静けさに額の花

志木市 谷村 康志

本物の一枚

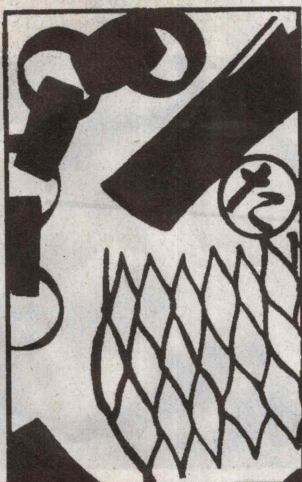
デパートの前を通りかかったら、現代アートの展示販売会をやっていた。広い会場に多くの作品が展示されている。絵葉書が欲しくて入ってみたが、美術館と違ってグッズは売っていない。本物の作品だけだ。

ウォーホルは見ておこう、と探した。マリリン・モンローなど有名な写真を加工した作品が好きなのだ。

そこにあった作品は二つで、一つはキャンベルスープの缶、もう一つは花がモチーフだ。お値段はどちらもマンション一戸分ほど。しかも両方売約済みだ。え、これって版画で、何枚も同じ作品が刷られてるのにとにかく本物の一枚なのだ。同柄のTシャツも持ってるけど。ウォーホルに平らにされてマリリンの寂しさ顔をはみ出して来る

川本千栄 ポップな色遣いで大量に並べられて。彼の作品はうるさいんだけど陽気ではない。どれもどこか寂しい。

短歌あれこれ 川本千栄（歌人）



題字デザイン・イラスト

福田美蘭